

平成26年度 相馬市教職員研究作品

相馬市立飯豊小学校

< 研究主題 >

児童一人ひとりが進んで自分の思いや考えを伝え合う力を育てる学習指導
～「国語科・社会科・算数科・理科において言語活動を充実させる指導」の実践～

1. 授業研究部

I 今年度の取り組み

講師の先生の授業参観およびTTや習熟度別学習、少人数指導を通して、教師個人および学年全体での授業を中心にした研究を通して授業力を高めることに努めてきた。

II 活動の実際

今年度はTTや習熟度別学習の授業に対応した「指導案」を検討した。

「じっくりコース」

面積、うさぎの数が異なる場合の混み具合の比べ方を考えようとしている。
(観察・発言・ノート)

「しっかりコース」

既習事項を生かしながら、面積、匹数が異なる混み具合の比べ方を考えようとしている。
(観察・発言・ノート)

「ぐんぐんコース」

既習事項を生かしながら、混み具合を考えようとしている(観察・発言・ノート)

- 時間は、各コース別に柔軟に考えられ、配分されている。「つかむ」「見通す」「学び合う」「まとめる」への時間への配慮をしている。
- 評価も、それぞれのコースごとに分かれ、実態に合わせたものになっている。

習熟度別学習を取り入れ、子に対してきめ細やかな指導ができるようになった。

3年生(1組・2組)と5年生(1組・2組)は、2つのクラスを「3つのクラス」に、4・6年生は、1クラスを「2つ」2分け、教務や学力向上の講師が入り、習熟度別学習を取り入れてきた。

【 駒形小学校の「根本直樹先生」の飛び込み授業からの学び 】



駒形小の根本直樹先生が、本校の4年生に飛び込み授業を行った。

わずか1時間の授業だったが、多くの学びがあった。

フラッシュカードを使って、問題意識を高めたり、子どもたちの意見から学習課題を自然に作り

上げたりするなど、柔らかい雰囲気の中で、子どもたちの心をつかみ、授業を進めていた。

【根本直樹先生からの学び】

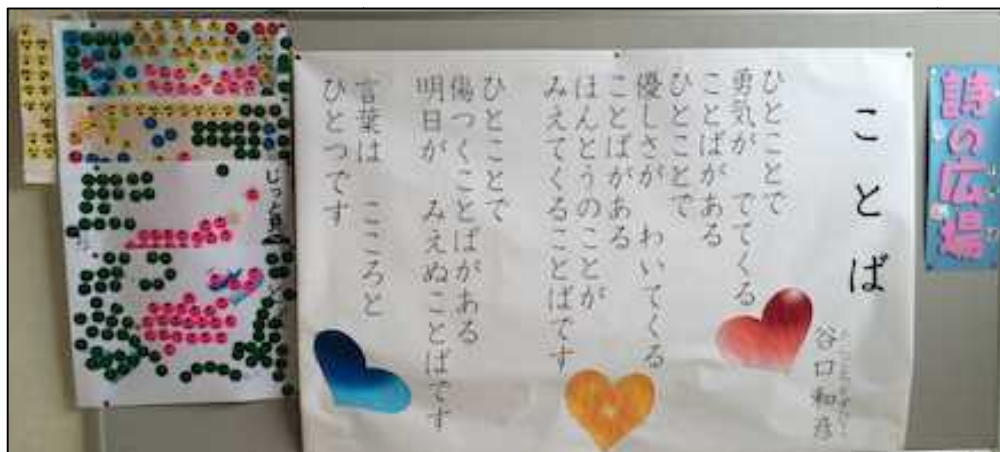
- はじめてあった子どもたちの名前を呼び、授業を進めていた。
- 子どもたちの名前をすべて覚えて、実際の授業でも、初めて会う子どもたち相手に、名前を呼んで授業した。気が散ってしまう子どもたちも、集中して授業の取り組んだ。とても効果があることを知った。
- 日常の授業で、なかなか集中できない子も、上手に意見を取り上げてもらったので、最後まで集中して取り組むことができていた。
- 大事な言葉(キーワード)は、何度もていねいに指導していた。書き方までていねいに指導しているのが、すごいと思った。
- はじめてあった子どもたちに、これだけの授業ができることに驚いた。
- リズムとテンポが良い授業で、すばらしいと思いました。

2. 環境構成部

I 今年度の取り組み

前年度から継続して、「言語活動を充実させる指導」に取り組んできた。
子どもたちの活動環境の整備に取り組んできた。

II 活動の実際



「詩の広場コーナー」の設置・活用

多くの子どもたちが毎日利用する階段の踊り場の掲示板を利用して「詩の広場コーナー」を作り、多くの詩に触れさせるようにした。月替わりで内容を変え、暗唱ができると「シール」がもらえるようにしたことで、意欲的に多くの詩に親しんでいくことができた。

3. 調査資料部

I 今年度の取り組み

児童へのアンケートおよび分析を行った。

II 活動の実際

アンケートの内容は、算数が「好き」か「嫌い」からはじまり、本を読むことや、わかったことや考えを書くこと。いろいろな言葉に興味を持つこと。話すことなど、18項目について調査した。

各学年ごと、各項目ごとに分析を行った。

【6年アンケート結果まとめ】(一部抜粋)

一回目のアンケートと2回目のアンケートを比べると、項目によって差があったもの、そうでなかったものが見られた。しかし、全体的に5年生時のアンケートの結果と比べると、よい結果が見られた。みんなの前で話すことについては抵抗を示す児童が依然として多いが「嫌い」と答える児童は、5年生時と比べると、それでも減ってきている。

【低学年】ブロックのテーマ

第1学年 学年テーマ

互いの考えを伝え合い、
いろいろな考えに気づ
かせる学習指導



・三角の形
をいろ
ろなら
べる



・数人の子
が発表
する



・グルー
プの中
でも
話し合
いをす
る

第2学年 学年テーマ

互いの考えを伝え合い、よ
りよい考えに気づかせる
学習指導



九九の歌を録音したCDに合わせて、歌いながら九九を唱え、楽しく練習させる。



・たし算を使っ
て答えを求め
ている。



・教え合い
を始める
子も出て
くる



・全体の前での
発表の様子。

1年 成果・課題

○黒板の前で発表したり、グループで発表したり、教えあったりして学習を進めることができた。

●子ども達を最後まで集中させるため、子ども達が問題を作り、それを全員で解く場面を作れば、もっと伝え合う場面を作ることができた。

2年 成果・課題

○「数えていく」「かけられる数をたしていく」「前の答えにかけられる数分をたしていく」などの答えが予想され、掲示物を準備し、6の段の作り方について、一つひとつの意見を確認しながら掲示することができた。

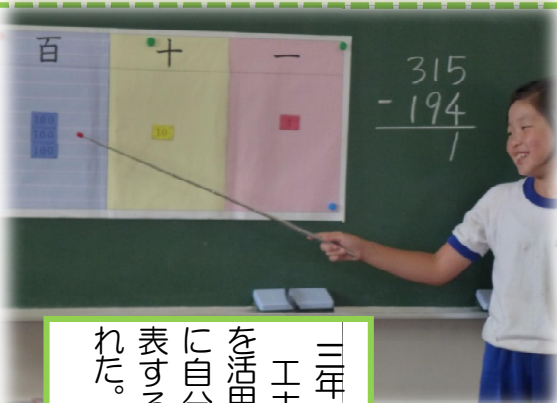
●自分の考えと友達の考え方の違いをどこまで理解していたのか、不明確であった。

【中学年】ブロックのテーマ

個に応じた確かな学力の定着を図る指導の工夫
～算数科における習熟度別学習を通して～

《習熟度別を重視した算数科の研究内容》

- ① 評価の累積から学習内容を設定「全コース」
- ② 自己評価→コース説明→自己選択学習「全コース」
- ③ 予想されるつまずき等に対応する支援策（教材の開発・学習コーナー）「全コース」
- ④ 学習の流れの構成
（既習事項の確認・話し合い活動・言語活動の充実・習熟の時間の確保）「コース別」
- ⑤ ノート構成の工夫（自己評価・感想）「全コース」



三年
工夫された教材
を活用して、意欲的
に自分の考えを発
表する様子がみら
れた。



3年 ぐんぐんコース

四年 計算の確かめ



4年 概数で見積もる説明

成果と課題

- 習熟度別学習により、児童一人ひとりが意欲的に学習することができた。
 - ・ 低位児のつまずきに応じた手立てが可能となり、挙手や発言の機会も増え自信を持って学習に取り組んでる姿が見られた。
- 自力解決の時間を確保した上で、教師の授業の組み立てや授業の中の児童の見とり、個別の支援がとても重要であることを改めて実感した。また、既習事項を生かすために、コースにあった「算数コーナー」や掲示物、ワークシート及びヒントカードなどを工夫することも必要とされる。

5 学年テーマ

見通しをもって授業に取り組み、自分の考えを少しでも説明することができる授業



「ぐんぐんコース」

・他のコースよりも、さまざまな場面で、負荷を多くかけている。

「しっかりコース」

・ぐんぐんコースより難易度は低く、じっくりコースよりは、難易度は高い。

「じっくりコース」

・教師が教える場面をしっかり確保し、基本的な学習内容を定着させる。

成果と課題

- コースの持っている特徴を生かした学習の流れができるようになってきており、児童の実態に合わせた学習課題や取り組みができるようになってきている。
- 授業の流れとしては、児童の個々のペースに合わせたもので取り組みやすい。習熟度別学習では、下位児童にとってはとりくみやすいものの、上位児童にとっては簡単すぎる面もある。

6 学年テーマ

考えを伝えあい、学びを深めることができる児童

本時のねらい

順列について、落ちや重なりがないように調べる方法を進んで考えることができる。



【めあての確認】

【グループ交流】

【グループでまとめる】

成果と課題

- 友だちの考えを聞いているときには、自分の考え方との相違を考えながら、真剣に聴くことができていたので、まとめを書くときも「記号」や「表」「わかりやすく」などの子とが場出てきて効率的な書き方の良さを理解できていた。
- 多様な意見が出たため、意見の把握を仕切れず、発表のさせ方も、児童の思考の流れに沿っていなかったため、意見の取り上げ方も工夫する。

成果と課題

成果

(1) 習熟度別学習により「わかる」「できる」と実感できる子が増えた。

「先生・ぼく算数がわかるようになってきた。」

ある5年生の男の子が言っていた。

ふとみると、○がつけてある答案用紙を手にしていた。テストの点が良かったのだ。

子どもが「できるようになった」と実感できれば、学習の意欲も高まる。

意欲が高まるから、さらに頑張ろうと思う。頑張るからできるようになる。

こういった好循環が生まれる。

ほんとうに小さなことだが、このような事実を一つ一つ積み上げていくことが大事なのだと思います。

(2) 外部講師の授業に刺激を受ける。

同じ教師であるから、おのずと厳しい目で授業を見る。

飛び込み授業

「はじめて会う子どもたち」に「たった1時間の授業」をする。

このような厳しい状況でも、子どもたちに楽しくわかる授業ができる。

このような事実と刺激が、先生方の意識を高めていくと思う。

一つでも二つでも、自分の授業の改善につながればよいと思う。

毎年、このような小さなことを一つ一つ重ねていき、徐々に授業の力量を上げることができる。

課題

○習熟度別学習におけるコースの分け方・決め方(基準)が課題である。

○各コースの境界線の児童の分け方や支援が難しい。

○單元ごとに児童のコースが分かれる時の児童への支援が必要である。

○下位の児童には、教師中心の授業の流れを作っていくことが必要である。

○計算になれさせる指導が必要である。

○小グループだけでなく全体の前でもはなせるような雰囲気作りや、自信を持たせる指導が必要である。

○個々の能力差を吸収する指導法をさらに考えていく。